

など、寄り添った伴走型のサポートを行っています。創業支援機関である「創業サポーター ソケツ津」にも加わっていますが、苦戦しているのが正直なところです。

成果が上がってきている津市ビジネスサポートセンターは素晴らしいと思いますし、市政の目玉になりつつあると思っています。

市長 ご相談を受けているとしっかり「つなぐ」ことも大事だと感じています。

行政が「つなぐ」というのは、中立的な立場で詰まったパイプを通すイメージですが、事業承継でそういうことがあります。デリケートな問題で、事業を引き継ぐ相手がいても、経営方針や事業展開で考え方が違い、息詰まるケースがあります。特に親族関係など日常の話はしても、会社の話はしにくいところがあるようです。ビジネスサポートセンターが仲介者の役割をすることで、2年間で2事業者が無事承継を終え、今も11事業者が話し合いを進めています。

岡本 事業承継については、私も何度かセミナーを開催しています。少し切り口が違いますが、津商工会議所青年部の活動を活発化させることも有効策かと思っています。会員の輪を広げて交流を深め、

互いに触発・啓発し合うことが次世代の後継者・地域経済の担い手育成につながっていくのではないかと思います。

市長 次の世代のことを考えると、地域に働く場所があるのは大事なことです。

企業誘致のお話をしますが、工業団地の中勢北部サイエンスシティは、交通利便性が高まったことで、企業の立地が好調で残り2区画となりました。市内には民間が開発した工業団地もあり、活発に誘致を進めたいと思っています。最近の企業の動きとして、製造ラインがすぐに必要で、土地を買い建屋を建て設備を入れるのでは遅いケースがあります。使われていない工場を居抜きで買うなどの企業間の取引もあります。2年間で4件のマッチングが実現しました。

もう一つ大切なのが既存企業への支援で、人材育成・新商品開発への支援や販路開拓などの支援をしています。

企業経営者の立場から、津市の今後の経済発展の方向性について、どのようにお考えですか。

岡本 商業関係では、短期的には人手不足への対応、中長期的には働き方改革、ワークライフバランスの普及・促進が課題です。私は「ワーク



ライフシナジー」が大切だと思います。生活と仕事の相乗効果(シナジー)で、休み方改革、女性活躍改革、さらに生き方改革まで関わってきます。そういう意味では資金も知恵も必要となってきます。津市にも積極的なサポートを期待したいです。

また、津市の今後の発展には津インターチェンジから中心市街地、津なぎさまちの都心軸の発展・充実が鍵になってくると思います。中でも津なぎさまちは、津商工会議所としても市の協力を得ながらにぎやかさが出せたらと思っています。

さらに道路も重要です。中勢バイパス、新名神高速道路という大動脈を補完する市内の都市計画道路の整備・促進です。

最後はやはり災害対策ですね。地域の強靱化対策が一番求められることです。

市長 何をにおいても重要なのは災害への備えですね。長期ビジョンに基づくまちづくりを進め、そこで企業がしっかりと経済活動できるようにサポートをしてまいります。今後も津商工会議所と力を合わせてまいります。

企業がしっかり
経済活動できるよう
サポート



津市長
前葉 泰幸
MAEBA YASUYUKI

市長対談の全編がご覧いただけます!
MAYOR'S TV SHOW

- ◆ 津市ホームページ 津市 市長対談 検索
- ◆ ケーブルテレビ行政情報番組(123ch)

